

12:20 ~ 14:30 シンポジウムⅡ

地域医療構想、地域包括ケアシステムの構築に向けた地域包括ケア病棟(床)の現状と課題

## 2. 地域医療連携推進法人から見た地域包括ケア病棟(床)

庄原赤十字病院 院長

中島浩一郎

私どもの庄原赤十字病院は、平成30年1月に近隣の3病院で構成される地域医療推進法人「備北メディカルネットワーク」に加入いたしました。全国法人の日本赤十字社の一病院の加入には、多くの困難を伴いましたが、赤十字本社・広島県・赤十字院長連盟をはじめとする多くの援助により、加入参画することができました。このたびは、地域医療連携推進法人備北メディカルネットワーク〔以下推進法人〕と当院の医療状況への影響、さらには推進法人の地域医療構想や地域包括ケアに対する役割について報告します。

広島県の北部二次医療圏は、庄原・三次の両市で構成され、人口約10万人、医療圏人口は約15万人です。推進法人は、庄原赤十字病院・市立三次中央病院・庄原市西城市民病院・三次地区医療センターで構成され、圏内の急性期を担うすべての病院が含まれます。設立の目的は医師・看護師の確保など、地域医療の充実を図ることであり、ゆるやかな連携を目指しています。地域で若手医師の教育を行う体制が、県や大学に評価され、地域枠の医師や自治医大卒業生、総合診療を目指す後期研修医は増加しています。当院においては、推進法人内の市立三次中央病院から産科医師1名と助産師の派遣をうけ、13年ぶりに出産が再開されました。地域枠の医師は、現在推進法人内で10名、そのうち5名が当院に所属しています。また推進法人内では、医療材料や高額医療機器の共同購入を進めており、スケールメリットを活かしたコスト削減を行っています。

北部二次医療圏の地域医療構想においては、他の多くの医療圏と同様に急性期病床の削減と回復期・地域包括ケア病床の増床が示されています。当圏域では推進法人内にすべての主要病院が含まれることから、推進法人内での話し合いで地域医療構想に対応することが決まっています。急性期病床が削減され、急性期の入院が困難になった場合は、病院同士で連携し地域包括ケア病床にサブアキュート入院として受け入れる仕組みを構想しています。

当医療圏内では、他の中山間地域と同様に医療資源が少なく、さらに急速な減少傾向にあります。例えば庄原市では、開業医師の高齢化が加速しており、この一年間で3名の診療所医師が診療を中止しています。地域包括ケアの柱の一つである在宅医療に携わる医師は、市内全域で現在2名のみです。訪問看護ステーションも不足しており、退院・在宅への流れが今後とも不安視されています。地域包括ケア病床からの在宅医療を担当・経験するなかで、派遣されている若手医師の地域医療に対するマインドを育てていく方針です。推進法人内で人員の相互派遣を行いながら、医療圏全体の地域包括ケアシステム構築を主導していくことを目指しています。